

# 校長室の窓から

～夢の扉 第47号～鹿児島編

R2. 3. 16 (月)

## 授業再開指示も目前で延期になりました。

文責 学校長

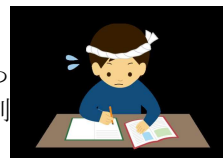


### 1 今年度も残りわずかとなりました。WHOはパンデミック宣言を出しました。

新型コロナウイルス感染防止策として3月2日(月)から全国の小中高・特別支援学校が臨時休校措置となり、本校も県教委の指示のもと、15日(日)まで、休校措置となっていました。佐賀県独自の判断で本日から授業再開するとの指示が出て、生徒の皆さんにも一旦は登校の支持を出しましたが、13日(金)に県内での感染者が出たため、目前で休校延長となりました。すでに、WHOが「パンデミック宣言」を出し、各国に感染拡大への防止策を呼びかけています。もはや「対岸の火事」ではなく「今そこにある危機」と捉え、一人ひとりが感染拡大防止を心がけ、不要不急の外出は避けなければなりません。特に、濃厚接触(2m以内)となるような空間(カラオケ・ゲームセンター・ライブハウス・トレーニングジムなど)への出入りは控え、県内でのさらなる感染防止に引き続き協力しましょう。

### 2 追認指導の課題は終わりましたか。

学年末の成績で、履修不足や未修得の科目があった生徒諸君は、3月1日(日)に担当の先生から課題を渡されていると思いますが、進み具合はいかがですか? 指示された日に提出できるように真剣に取り組みましょう。新2・3年生への進級に向けてもうひと踏ん張り(ラストチャンス)です。



### 3 今日の一言・・・稲盛和夫と長渕剛(鹿児島県出身)の言葉です。

○常日頃より、原理原則に基づいた判断をしていれば、どんな局面でも迷うことはありません。「原理原則」に基づくということは、人間社会の道德、倫理といわれるものを基準として、人間として正しいものを、正しいままに貫いていこうということです。

○人生の明暗を分かちつものは、運不運ではなく、心の持ちようだ。苦しいときこそ、明るい希望を失ってはならない。また、成功したときこそ、感謝の心、謙虚な心を忘れてはならない。



【解説】京セラの会長・稲盛和夫氏の言葉です。日本航空(JAL)の再建に代表されるように、企業のトップとして数々の手腕を発揮してきた実績に基づく言葉ですが「人として正しいこと」を判断基準とするという信念は当たり前のようではありますが、今の時代だからこそ揺るぎない信念として持つておくべきだということを感じます。

【稲盛和夫について】日本の実業家。京セラ・第二電電(現・KDDI)創業者。公益財団法人稲盛財団理事長。「盛和塾」塾長。日本航空名誉会長。鹿児島県鹿児島市薬師町に7人兄弟の二男として生まれる。父の職名は「稲盛調進堂」という名で印刷工場を経営していた。西田尋常高等小学校、鹿児島中学(現在の鹿児島高等学校)を卒業する。銀行就職を考えたが、周囲の勧めで鹿児島高等学校第三部(現・鹿児島県立鶴丸高等学校)へ進学、その後鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校に転校し同校の第一期生として、卒業する。大阪大学医学部の受験に失敗し、当時は新設大学であった鹿児島県立大学(現・鹿児島大学)の工学部応用化学科で、有機化学を専攻した。(参考:「Wikipedia」より)

○別に下手くそでも、つたなくてもいいんだよ。大切なのは、俺の気持ちを前にお伝えたい! この純粋な想いのみだ。

○20代の時はさ、こんなケノ田舎、冗談じゃねえよって出てきたんだけど、母親が亡くなり、父親も居なくなりそうな状況に直面した時に、故郷というものがたまらなく愛しくなって、いつしか感謝の気持ちに変わり、しまいには恩返しをしたいって気持ちが湧いてきたんだ。

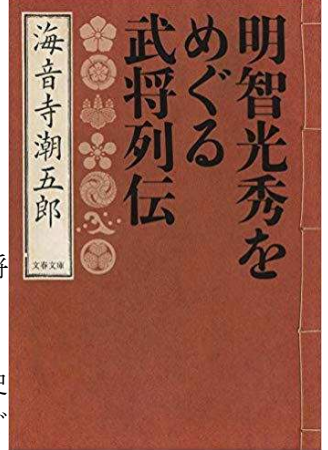


【解説】皆さんご存じ(?)の名曲「乾杯」「とんぼ」「巡恋歌」「ろくなもんじゃねえ」などヒット曲を出し、シンガーソングライターのカリスマ的存在の永渕剛の言葉です。アーティスト(書家・画家)としても有名で、昭和世代のみならず平成の世代からも圧倒的な支持を得ており、我々親父世代の熱い魂がこの言葉からも窺えます。故郷・鹿児島の桜島や富士山の麓でのオールナイトコンサートは熱狂的なファンの間では伝説となっています。

【長渕剛について】日本のシンガーソングライター・俳優・詩人・画家・書道家。鹿児島県日置郡伊集院町生まれ、鹿児島市育ち。鹿児島市立中郡小学校、鹿児島市立甲南中学校、鹿児島県立鹿児島南高等学校情報処理科を経て、九州産業大学芸術学部中退。デビュー時の芸名は長淵剛で、名の読みが「ごう」。Office REN(オフィス・レン)所属。妻は元女優の志穂美悦子。長女は女優の文音(あやね)。長男はミュージシャンのWATARUこと航(わたる)。次男は元レーシングカードライバーで、現在はシンガーソングライターのReNこと蓮(れん)。(参考:「Wikipedia」より)

#### 4 今日の一冊・・・今回の一冊は、海音寺潮五郎の『明智光秀をめぐる武将列伝』です。

戦国史上最大の逆臣と言われる明智光秀。信長に仕えて以降は詳しく伝えられているが、その出自と最期は判然としない。そこに改めて光を当てたのが海音寺潮五郎。名著『武将列伝』から光秀に関わる武将の列伝を新たに編んだのが本書である。斎藤道三、織田信長、豊臣秀吉、前田利家など七人。歴史小説の真髓をいま読者に! (「BOOK」データベースより)



【解説】NHK大河ドラマ『麒麟が来る』で主人公となっている**明智光秀**。数々の戦国武将の中でどちらかという主君・織田信長を裏切った逆臣としてのイメージが強い武将である。その明智光秀を始めとして**7人の武将**を取り上げ、それぞれの人物像にせまった力作である。歴史上の人物の人間像は、勝利側の視点で記載された歴史書と敗者側の視点で記載された歴史書ではその人物にまつわるエピソードも大きく異なってきます。光秀は信長を倒した後、すぐに信長の家臣であった秀吉に倒されてしまうので、逆賊という視点で捉えられざるを得ないことになってしまいます。本書は、両方の側に残っている歴史的資料を比較分析し、根拠とする資料を示しながら、人物像をとらえていくというスタイルになっています。小説というよりも歴史研究書と言った方が適当かもしれません。

【作者・海音寺潮五郎について】 鹿児島県伊佐郡大口村（現・伊佐市）生れ。国学院大学卒。中学の国漢教師を勤めた後、創作に専念。1929（昭和4）年「うたかた草紙」が「サンデー毎日」大衆文芸賞に入選。1932年長編「風雲」も同賞を受賞。1936年『天正女合戦』で直木賞を受賞。1957年に完結した『平将門』は新時代の歴史小説の先駆となった記念碑的大作。日本史への造詣の深さは比類がない。他に『武将列伝』『列藩騒動録』『天と地と』『西郷隆盛』『西郷と大久保』『幕末動乱の男たち』『江戸開城』など著書多数。（参考：新潮社・著者プロフィール）

【作者・海音寺潮五郎について】 鹿児島県伊佐郡大口村（現・伊佐市）生れ。国学院大学卒。中学の国漢教師を勤めた後、創作に専念。1929（昭和4）年「うたかた草紙」が「サンデー毎日」大衆文芸賞に入選。1932年長編「風雲」も同賞を受賞。1936年『天正女合戦』で直木賞を受賞。1957年に完結した『平将門』は新時代の歴史小説の先駆となった記念碑的大作。日本史への造詣の深さは比類がない。他に『武将列伝』『列藩騒動録』『天と地と』『西郷隆盛』『西郷と大久保』『幕末動乱の男たち』『江戸開城』など著書多数。（参考：新潮社・著者プロフィール）

#### 5 日本全県味めぐり…第46回は鹿児島県です。

鹿児島県のグルメと言えば、「鹿児島黒牛」「黒豚のしゃぶしゃぶ」「きびなご料理」「さつま揚げ」を挙げたい。まず「鹿児島黒牛」。現在では全国一位の和牛・黒毛和種の生産県となった鹿児島。「鹿児島黒牛」は、きめ細かく柔らかい肉質にバランス良く織り込まれた、不飽和脂肪酸と呼ばれる融点の低い霜降りが織りなすとろけるような食感と、繊細ながらもしっかりと肉と脂の旨みの特徴のブランド牛です。次に「黒豚のしゃぶしゃぶ」かごしま黒豚と野菜で食すしゃぶしゃぶ。さつまいもを含んだ飼料で育てられるかごしま黒豚は、うまみと甘みがありながらさっぱりしており、肉本来の美味しさを味わえるしゃぶしゃぶでの食べ方が人気です。そして「きびなご料理」。きびなごとはイワシ科の8 cm 程の小魚。酢みそで食す刺身、塩焼や天ぷら、煮付け、揚げ物、汁物など、様々な調理方法で味わうことができます。中でも、菊の花をかたどって盛りつけられる刺身「菊花造り」は、鹿児島県の郷土料理を語る上では欠かせないおもてなし料理です。きびなごが多く水揚げされることから、当地で多くのきびなご料理が根付いたとされます。地域によって調理方法は様々で、枕崎や種子島ではすき焼きにきびなごを入れるなど、産地ならではの調理法が多様にあります。最後に、「さつま揚げ」。鹿児島で人気を集めるお土産のひとつが「さつま揚げ」です。さつま揚げには、オーソドックスないわし揚げ、海苔巻、いも天、ごぼう天、五目揚げと、たくさんの種類があります。最近ではチーズも人気のようです。オーブントースターで焼いたり、フライパンで少し焦げ目をつけるように焼いて、わさび醤油を少しつけて食べるとお酒がすすみますし、マヨネーズやポン酢もオススメです。



(参考:「郷土料理ものがたり」より)

【白熊】(むじゃき) 本家「天文館むじゃき」の看板メニューがかき氷「白熊」。かき氷に練乳をかけ、バナナ、メロン、スイカ、サクランボといった果物や甘納豆などを飾り付けて食べます。名前の由来はいろいろな説がありますが、「始まるの頃に使っていた練乳の缶に白熊の絵があったから」という説や、「真上から見ると白く丸いところが白熊の顔に似ているから」といった説などがあります。

【かるかん】(蒸気屋・明石屋) 鹿児島のお土産の定番が「かるかん」です。米粉で作った皮で餡子を包んだ上品な和菓子で、生地には**自然薯(山芋)**を使って蒸し上げているので、小麦粉のスポンジ生地よりもしっとりもっちりした食感です。かるかんを割ると、甘いこしあんが現れます。婚礼や年賀などに使われた格式高い御菓子です。「明石屋」や「蒸気屋」が有名です。



#### 6 保護者の皆様へ・・・はなまる連絡帳に登録されていますか。

「学校再開」から「休校延長」と五月雨的に連絡をお入れする事態となりましたが、お子様はご家庭でどのようにお過ごしでしょうか。追認指導の対象となっているご家庭では新2・3年生への進級に向けて応援よろしくお願ひします。